

東京都がん対策推進計画に係る都民意識調査

報告書

平成29年3月
東京都福祉保健局

I	調査実施概要	2
II	回答者の属性	4
III	調査結果の分析	5
1	: 回答者の状況.....	5
2	: 「がん」についての認識.....	9
3	: 「がん」に関する知識.....	22
4	: 「がん」検診について.....	29
5	: 「肝炎ウイルス」について.....	53
6	: 「がん教育」について.....	71
7	: 「がん」にかかった場合、整っていることが望ましい環境.....	73
8	: 「がん医療」について.....	75
9	: 「緩和ケア」について.....	77
10	: 人生の最終段階の療養場所.....	79
11	: 「小児がん」について.....	81
12	: 「がん」に関する情報収集.....	86
13	: 「全国がん登録」について.....	90

付 調査票（提示調査画面）

I 調査実施概要

(1) 調査目的

東京都では、がん対策基本法に基づき「東京都がん対策推進計画」を策定しており、平成 25 年 3 月に策定した現行計画の計画期間が平成 29 年度末で終了することから、平成 29 年度に計画改定を予定している。

「東京都がん対策推進計画」改定に向けて、がんに関する現状及び今後の課題を把握することを目的として、「東京都がん対策推進計画に係る都民意識調査」を実施した。

(2) 調査項目・内容

後掲の調査票（提示調査画面）を参照

(3) 調査方法

調査モニターを使用したWEBインターネット調査

(4) 調査地域及び調査対象者

東京都内全域に居住する都民5, 380人

(5) 回答者数

5, 380人（回収率100.0%）

(6) 調査期間

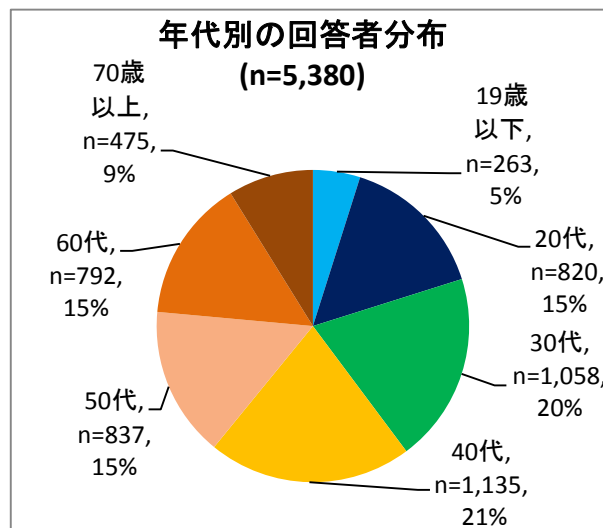
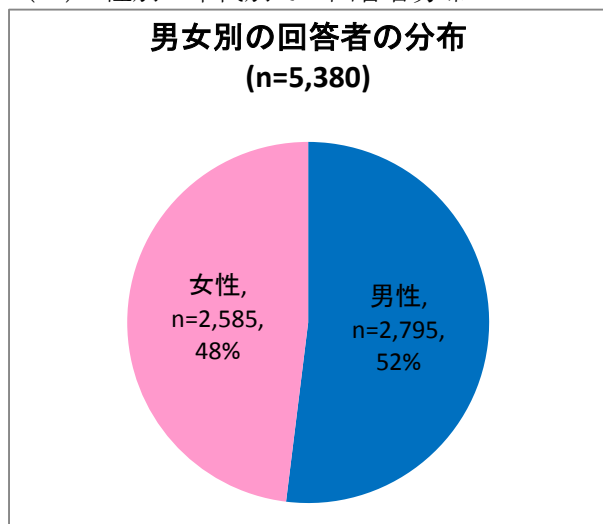
平成29年2月1日（水）から同月10日（金）まで

2 報告書の見方

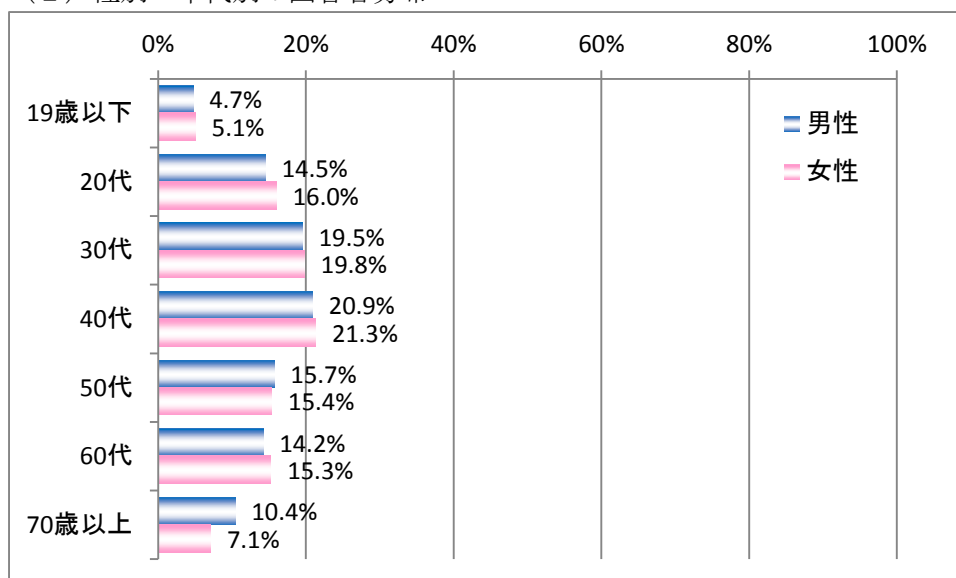
- (1) 各項目のはじめに質問項目と共に示してある単純集計のnは、回答者数のことである。質問に対する回答は、1つの場合や3つ、いくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、合計比は100%を超えることがある。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、本文及び図表中では原則として小数第2位を四捨五入して整数で示した（全体については、小数第2位を四捨五入して小数第1位まで表示）。このため、百分比の合計が100%に満たない、または上回る場合がある。図表中の「-」は皆無を示している。
- (3) 本調査の分析に使用する項目については10%水準での有意差検定を行った。有意水準（危険率）%は、調査結果に10%以上の確率で差がある（ないことはない）場合に有意差ありとみなす。本調査では、有意水準（危険率）が10%以下であり、母集団間を比較したときにその回答の選択が多い場合を「10%水準で高位で有意差あり」とし、有意水準（危険率）が10%以下で母集団間を比較したときにその回答の選択が少ない場合を「10%水準で低位で有意差あり」としている。
- (4) 前回調査（※）との比較は前回調査においても同様の質問がある項目についてのみ実施しており、前回調査と比較して±10ポイントを超える値の増減があった場合に、コメントを記している。また、前回調査と調査方法の変更（例：（ひとつを選択）→（複数回答））があったものは、備考欄にその旨を記載している。
※ 平成24年3月に、同じ目的で実施した都民意識調査（前回調査の母集団は2,310人）
- (5) 性別×年代別以外のクロス集計は以下の項目について行い、回答者数が30以上で割合が全体と比較して±10ポイントを超える値の増減があり、なおかつ傾向の差が見られた以下項目についてコメントを記している。
<コメントを記している項目>
 - ・ Q6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせ下さい。
→「がん」経験の有無でのクロス集計
 - ・ Q13. がん検診にはメリットとデメリットがあることを知っていますか。
→「がん」経験の有無でのクロス集計
 - ・ Q16. あなたは「肝炎ウイルス」を知っていますか。
→「がん」経験の有無でのクロス集計
 - ・ Q17. 「肝炎ウイルス」について、あなたのお考えをお聞かせ下さい。
→「肝炎ウイルス」への認知度別のクロス集計
 - ・ Q18. あなたはこれまでに、肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか。
→市町村別のクロス集計

II 回答者の属性

(1) 性別・年代別での回答者分布



(2) 性別×年代別の回答者分布



n 数	男性	女性	合計
合計	2,795	2,585	5,380
19歳以下	132	131	263
20代	406	414	820
30代	546	512	1,058
40代	584	551	1,135
50代	439	398	837
60代	397	395	792
70歳以上	291	184	475

Ⅲ 調査結果の分析

1 : 回答者の状況

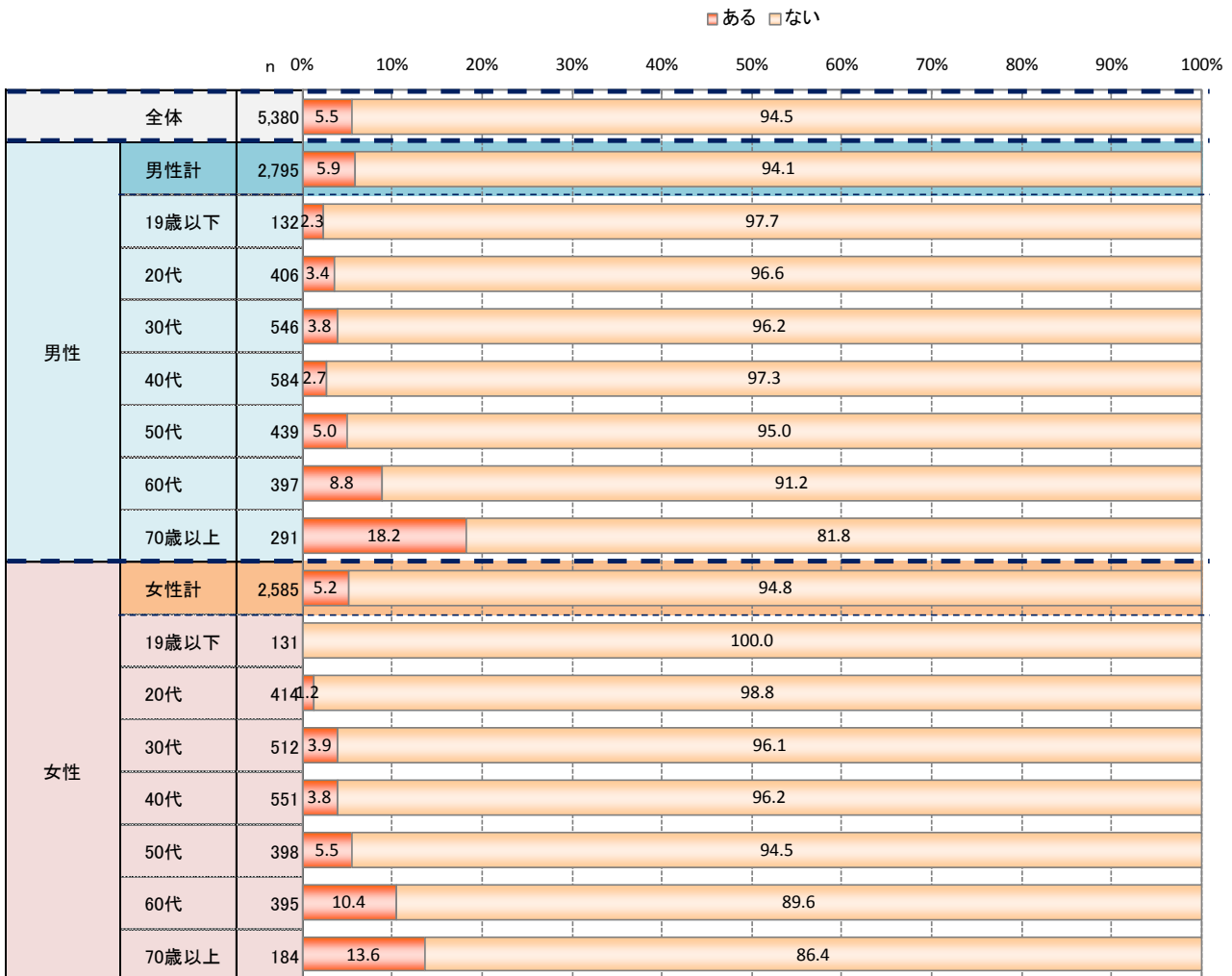
問4. あなた自身はこれまで、「がん」になられたことがありますか。

【全体】

- ・ 「ある」は5.5%、「ない」は94.5%となっており、「がん」になったことがあるのは約20人に1人の割合である。

【性別×年代別】

- ・ 「ある」が最も多いのは「男性：70歳以上」（18.2%）である。
- ・ 「男性：70歳以上」の次に「ある」が多いのは、「女性：70歳以上」（13.6%）、「女性：60代」（10.4%）、「男性：60代」（8.8%）と続く。
- ・ 「ある」が最も少ないのは男女とも「19歳以下」であり、男性は2.3%、女性は回答がゼロである。



1：回答者の状況

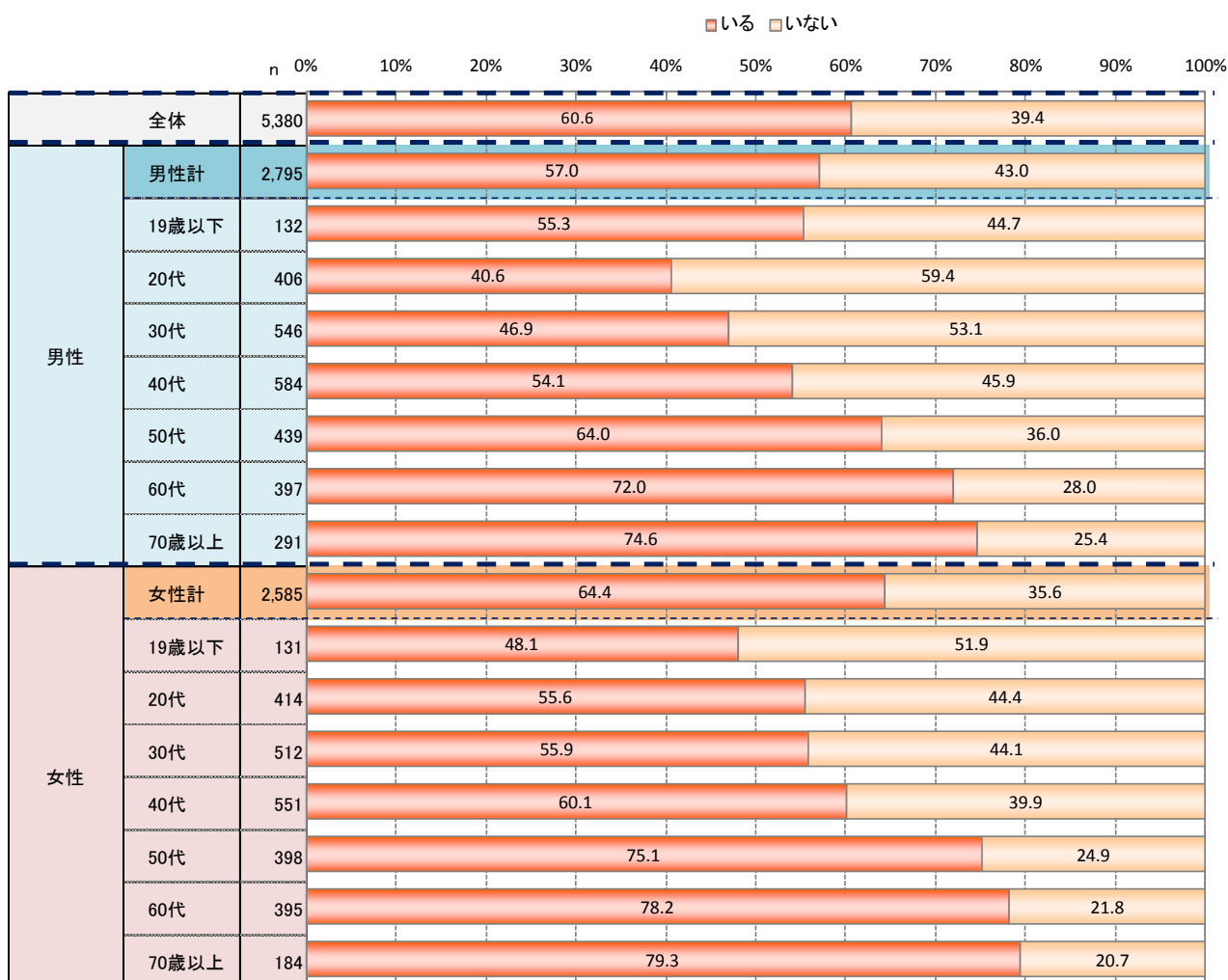
問5. あなたの周りで「がん」になられた方がいますか（いましたか）。

【全体】

- ・ 「いる」は60.6%、「いない」は39.4%となっており、周りに「がん」になった人がいるは全体の60%を超えている。

【性別×年代別】

- ・ 「いる」が最も多いのは、男女とも「70歳以上」で、男性は74.6%、女性は79.3%である。
- ・ 「いる」が最も少ないのは、男性では「20代」の40.6%、女性は「19歳以下」の48.1%である。
- ・ 「いる」が50%未満であるのは、「20代：男性」「30代：男性」「19歳以下：女性」である。
- ・ 同じ年代の男女間で比べると、「19歳以下」を除き女性の方が多い。



1 : 回答者の状況

問5－2. 問5で「いる」と回答された方にお聞きします。

その「がんと診断された方」とあなたとの関係は何ですか。（複数選択可）

【回答の選択肢】

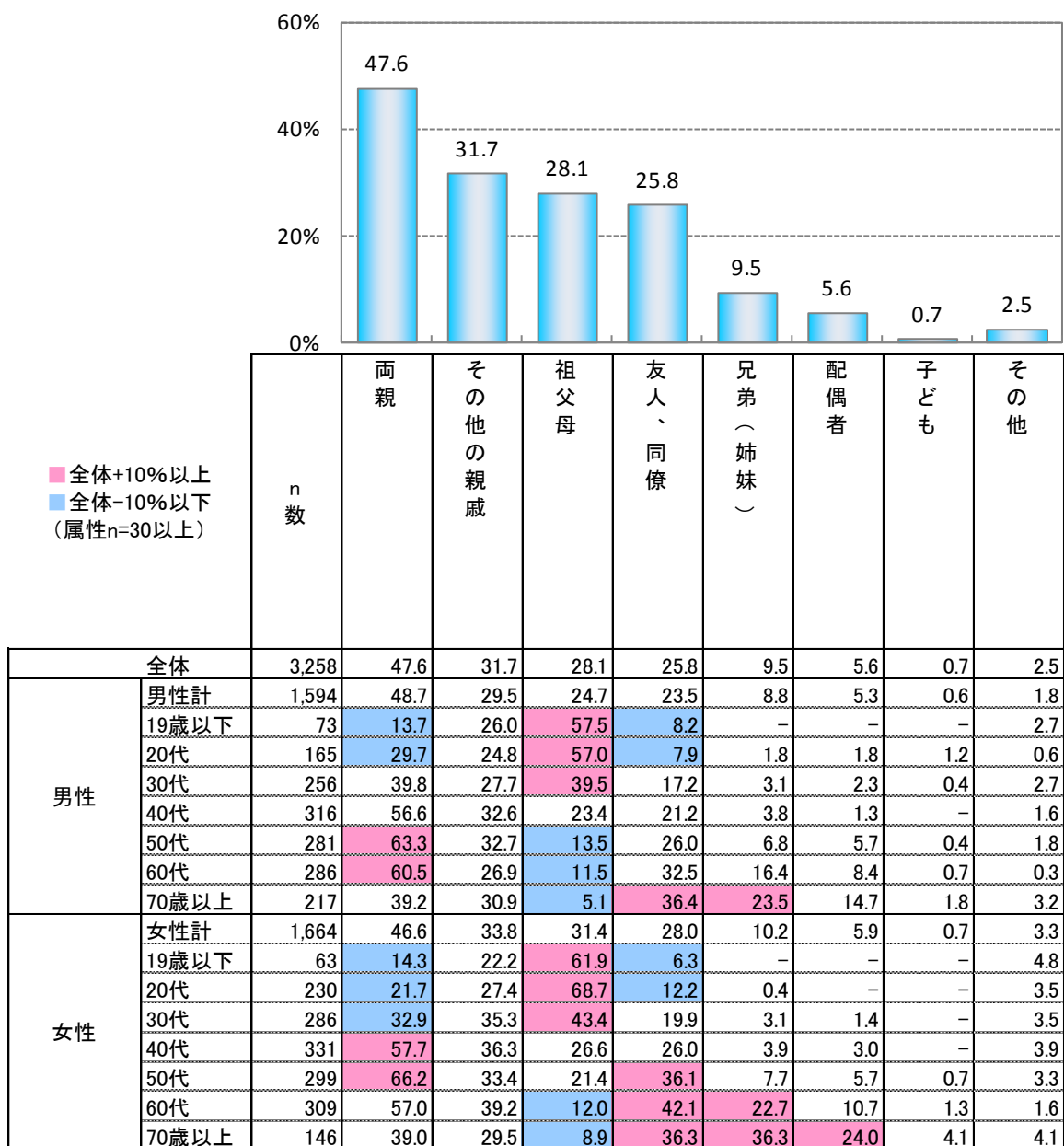
「配偶者」「両親」「兄弟（姉妹）」「祖父母」「子ども」「その他の親戚」「友人、同僚」
「その他（自由回答）」

【全体】

- ・ 問5で「いる」と答えた3,258名にがんに診断された方との関係を聞いたところ、最も多いのは「両親」（47.6%）であった。次に「その他の親戚」（31.7%）、「祖父母」（28.1%）と続く。

【性別×年代別】

- ・ 40代～70歳以上では、男女ともに「両親」が最も高く、「男性：60代」、「男性：50代」、「女性：50代」で60%を超えている。
- ・ 30代では、男性は「両親」（39.8%）「祖父母」（39.5%）がほぼ同じなのに対し、女性は「両親」（32.9%）「祖父母」（43.4%）であり、「祖父母」が「両親」に比べて10.5ポイント多い。
- ・ 20代及び19歳以下では「祖父母」が最も多い。



2：「がん」についての認識

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。

(1)～(7)の項目に対し、それぞれに「そう思う」「多少思う」「あまり思わない」「思わない」から、ひとつ選択

【全体】

- ・ 「(7) がんの治療に高額な医療費がかかる」は、「思う(計)：「そう思う」＋「多少思う」の回答の合計、以下同じ」が93.4%と最も多い。
- ・ 「(4) 多くのがんは早期発見により治療が可能である」と「(5) がんにならないためには生活習慣の改善が必要である」は、「思う(計)」がそれぞれ89.3%、82.7%と80%を超えた。一方、「(3) 自分はがんにならないと思っている」については、「思う(計)」が29.8%であった。
- ・ 「(2) がんの痛みは取り除くことができる」に「思う(計)」は65.7%であった。

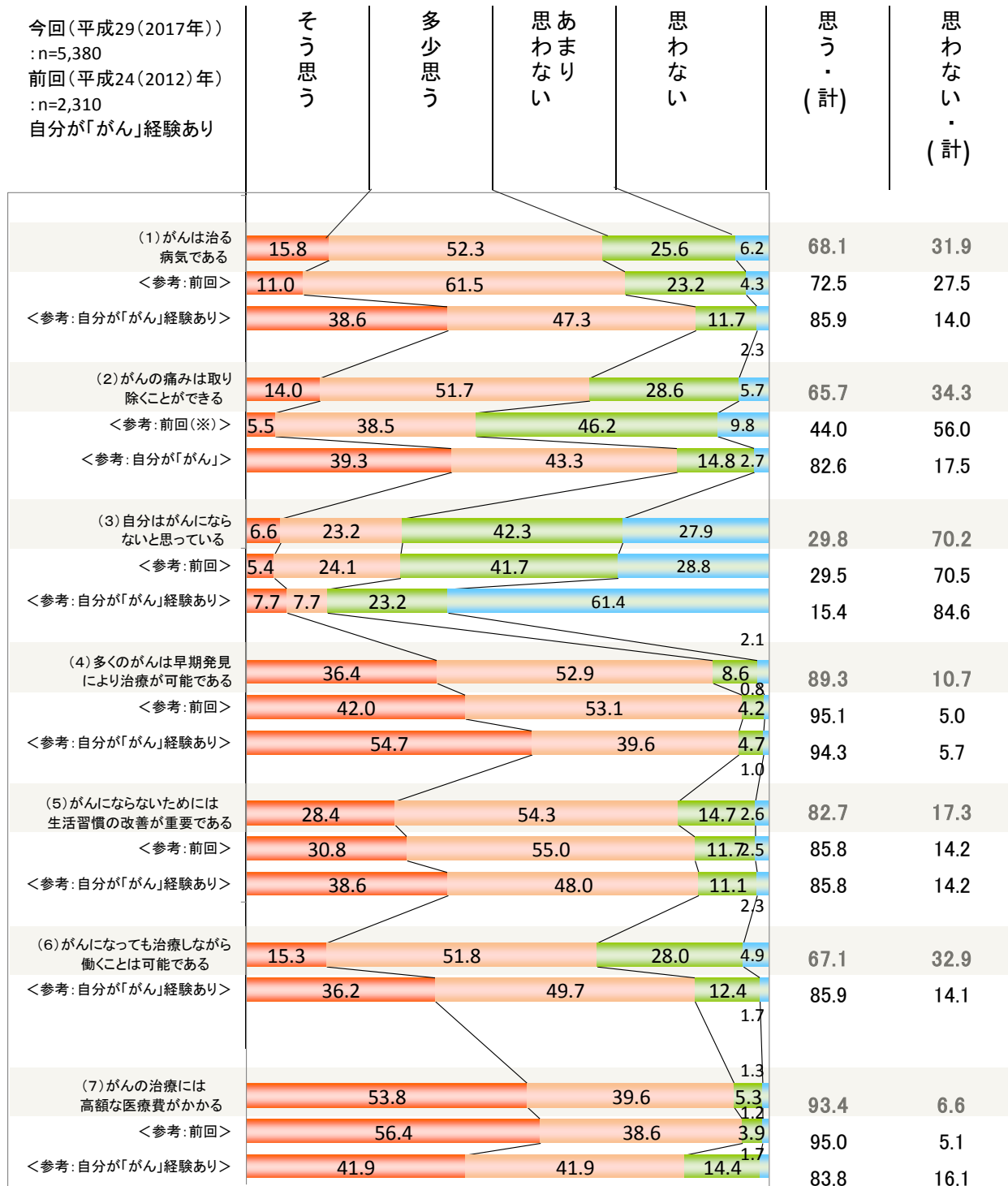
【前回調査との比較】

- ・ 「(2) がんの痛みは取り除くことができる」は前回調査では、「がんの痛みは取り除けない」で聞いている。今回の「がんの痛みは取り除くことができる」に対し、「思う(計)」と回答した割合は65.7%である。前回の「がんの痛みは取り除けない」に対し、「思わない(計)」と回答した割合は44.0%であり、21.7ポイント増加している。

【自分の「がん」経験有無による比較】

- ・ 問4で自分が「がん」になったことがあると回答した人(回答者数：298名)のうち、「(1) がんは治る病気である」について、「そう思う」は38.6%であり、全体の15.8%と比べて22.8ポイント多い。
- ・ 同様に、「(2) がんの痛みは取り除くことができる」でも、自分が「がん」になったことがあると答えた人のうち、「そう思う」は39.3%であり、全体の14.0%と比べて25.3ポイント多い。
- ・ 「(4) 多くのがんは早期発見により治療が可能である」は、自分が「がん」になったことがあると答えた人のうち、「そう思う」は54.7%であり、全体の36.4%と比べて18.3ポイント多い。
- ・ 「(6) がんになっても治療しながら働くことは可能である」は、自分が「がん」になったことがあると答えた人のうち、「そう思う」は36.2%であり、全体の15.3%と比べて20.9ポイント多い。
- ・ 「(1) がんは治る病気である」「(2) がんの痛みは取り除くことができる」「(4) 多くのがんは早期発見により治療が可能である」「(5) がんにならないためには生活習慣の改善が重要である」「(6) がんになっても治療しながら働くことは可能である」についての答えから、自分が「がん」になったことがあると回答した人の方が「がん」について正しく認識していることが伺える。

今回(平成29(2017年))
:n=5,380
前回(平成24(2012)年)
:n=2,310
自分が「がん」経験あり



※ 前回調査では、「がんの痛みは取り除けない。」という質問であった。

2 : 「がん」についての認識

(1) 「がん」は治る病気である

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。

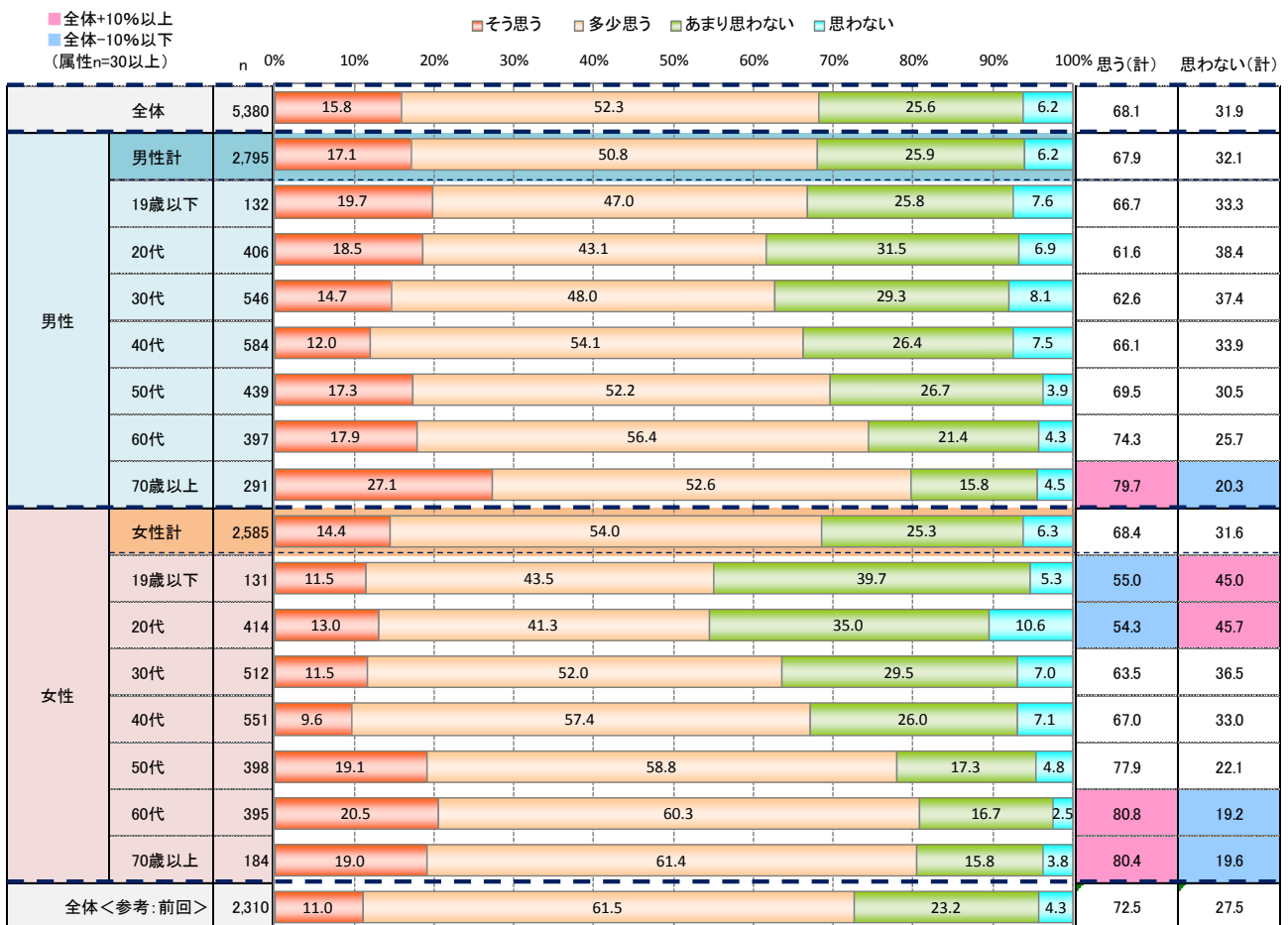
(1) 「がん」は治る病気である

【全体】

- ・ 「そう思う」が15.8%、「多少思う」が52.3%であり、「思う(計)」が68.1%と前回調査時の72.5%と比べて4.4ポイント下がった。

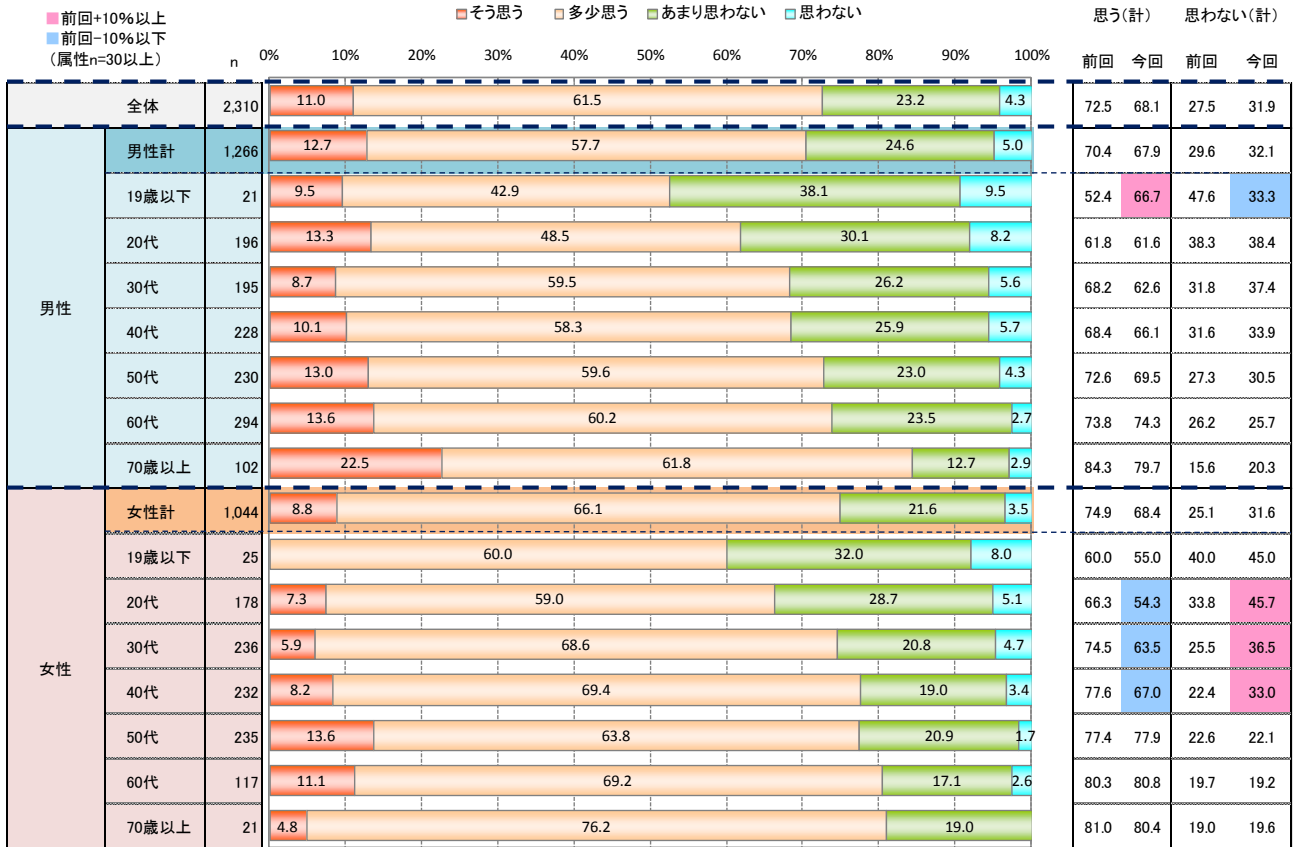
【性別×年代別】

- ・ 「そう思う」は「男性：70歳以上」が27.1%と最も多い。
- ・ 「思う(計)」は「女性：60代」で80.8%、「女性：70歳以上」で80.4%、「男性：70歳以上」で79.7%であり、年代が上がるにつれて多くなる傾向にある。
- ・ 「思わない(計)：「あまり思わない」+「思わない」の回答の合計、以下同じ」は、「男性：20代」が38.4%、「女性：20代」が45.7%と20代が最も多い。



【前回調査との比較】

- ・ 前回調査との比較では、「思う（計）」が全体では68.1%であり、前回の72.5%から4.4ポイント下がった。
- ・ 特に、「女性：20代」では54.3%であり、前回の66.3%から12.4ポイント下がった。また、「女性：30代」も63.5%であり、前回の74.5%から11.0ポイント下がった。さらに、「女性：40代」も67.0%であり、前回の77.6%から10.6ポイント下がった。
- ・ 一方、「男性：19歳以下」では、前回の52.4%から14.3ポイント上がり、66.7%になった。



<前回（平成23年時）調査結果>

2：「がん」についての認識

(2) 「がん」の痛みは取り除くことができる

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。

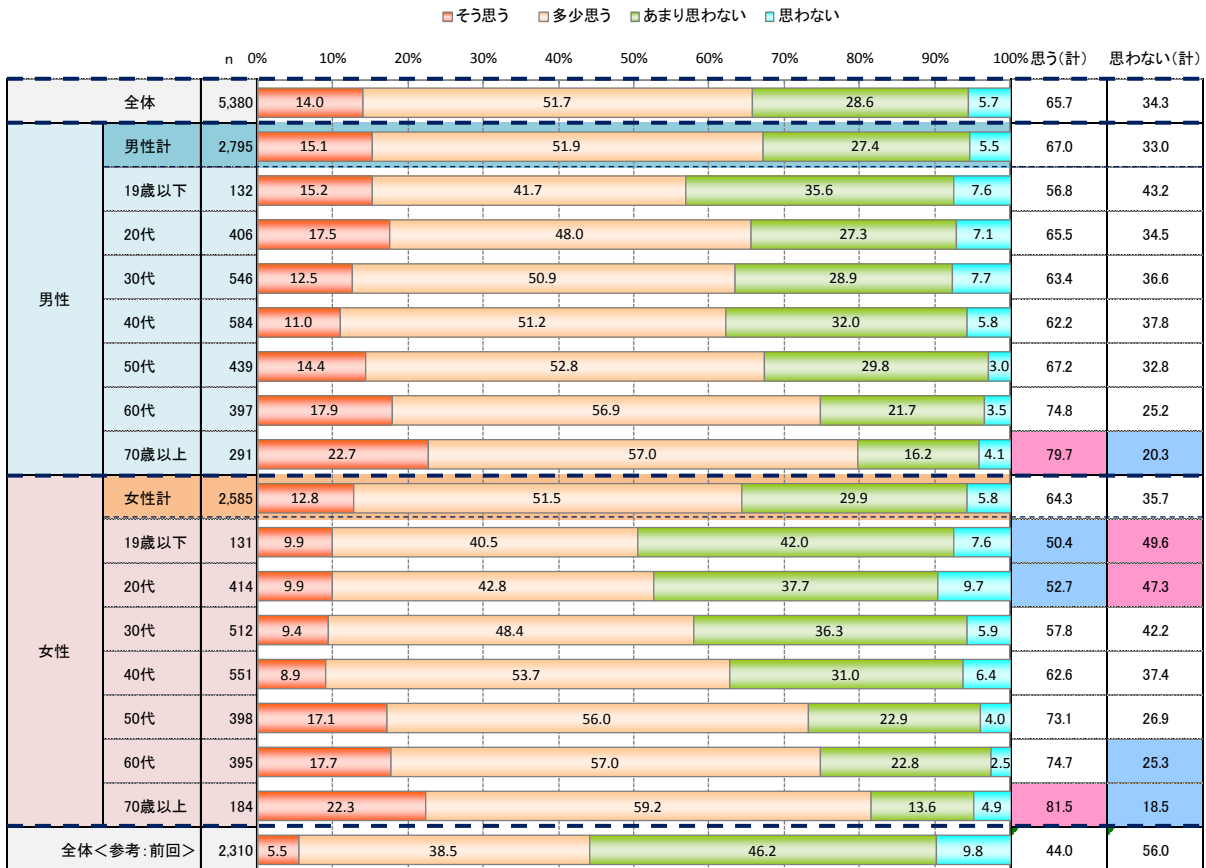
(2) 「がん」の痛みは取り除くことができる

【全体】

- 「そう思う」が14.0%、「多少思う」が51.7%であり、「思う（計）」が65.7%である。

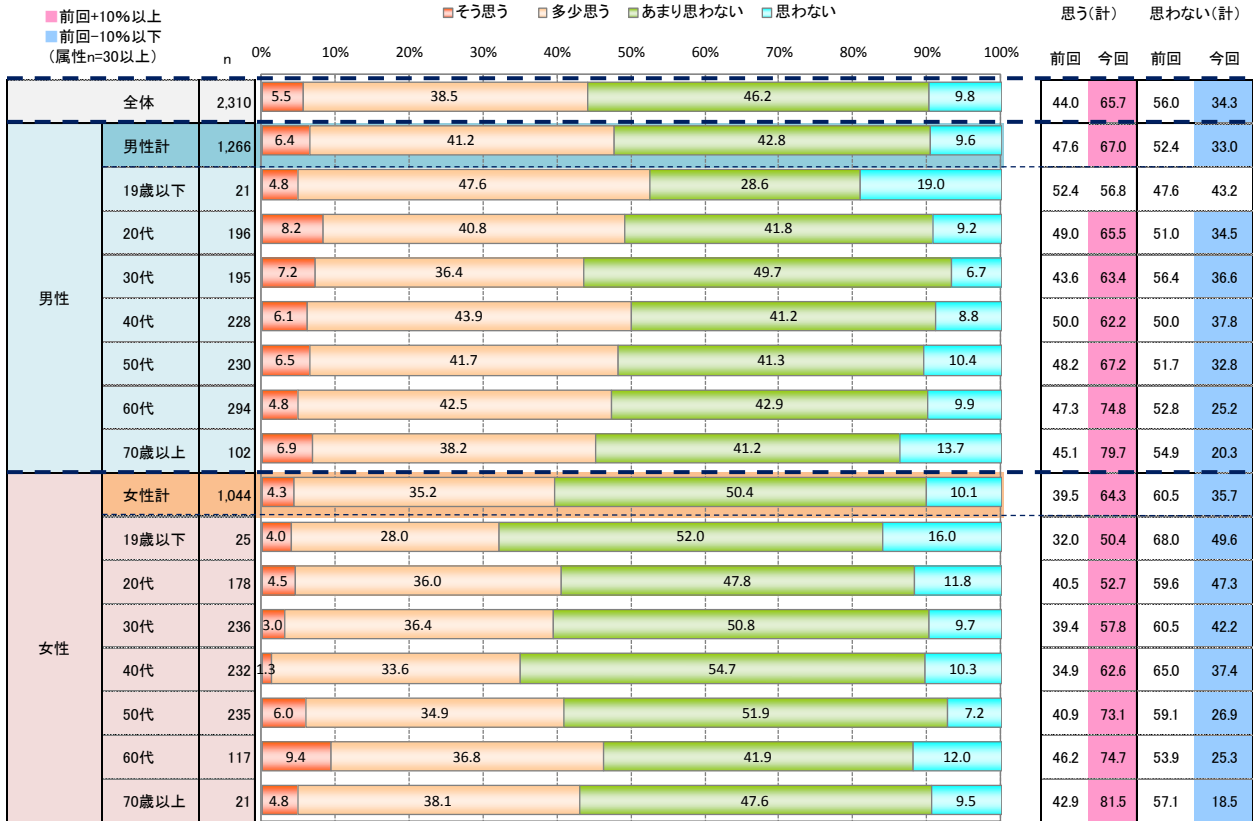
【性別×年代別】

- 「思う（計）」は、男性は「70歳以上」の79.7%、女性は「70歳以上」の81.5%が最も多い。
- 一方、「思わない（計）」は「19歳以下」が最も多く、男性は43.2%、女性は49.6%である。
- 同じ年代で男女間の比較をすると、「19歳以下」「20代」「30代」の年代では男性の方が「思う（計）」が多いが、年代が上がるにつれて逆転し、「50代」「70歳以上」の年代は、女性の方が「思う（計）」が多い。



【前回調査との比較】

- ・ 今回の「がんの痛みは取り除くことができる」に対する「思う（計）」は65.7%である。前回調査で今回の「思う（計）」に相当する回答（「がんの痛みは取り除けない」という質問に対する「思わない（計）」）は44.0%であり、前回調査と今回を比べると、21.7ポイント上がっている。
- ・ 年代別でも、「19歳以下：男性」を除く全ての世代で、「思う（計）」は前回調査から10ポイント以上上がっている。



<前回（平成23年時）調査結果>

2：「がん」についての認識

(3) 自分は「がん」にならないと思っている

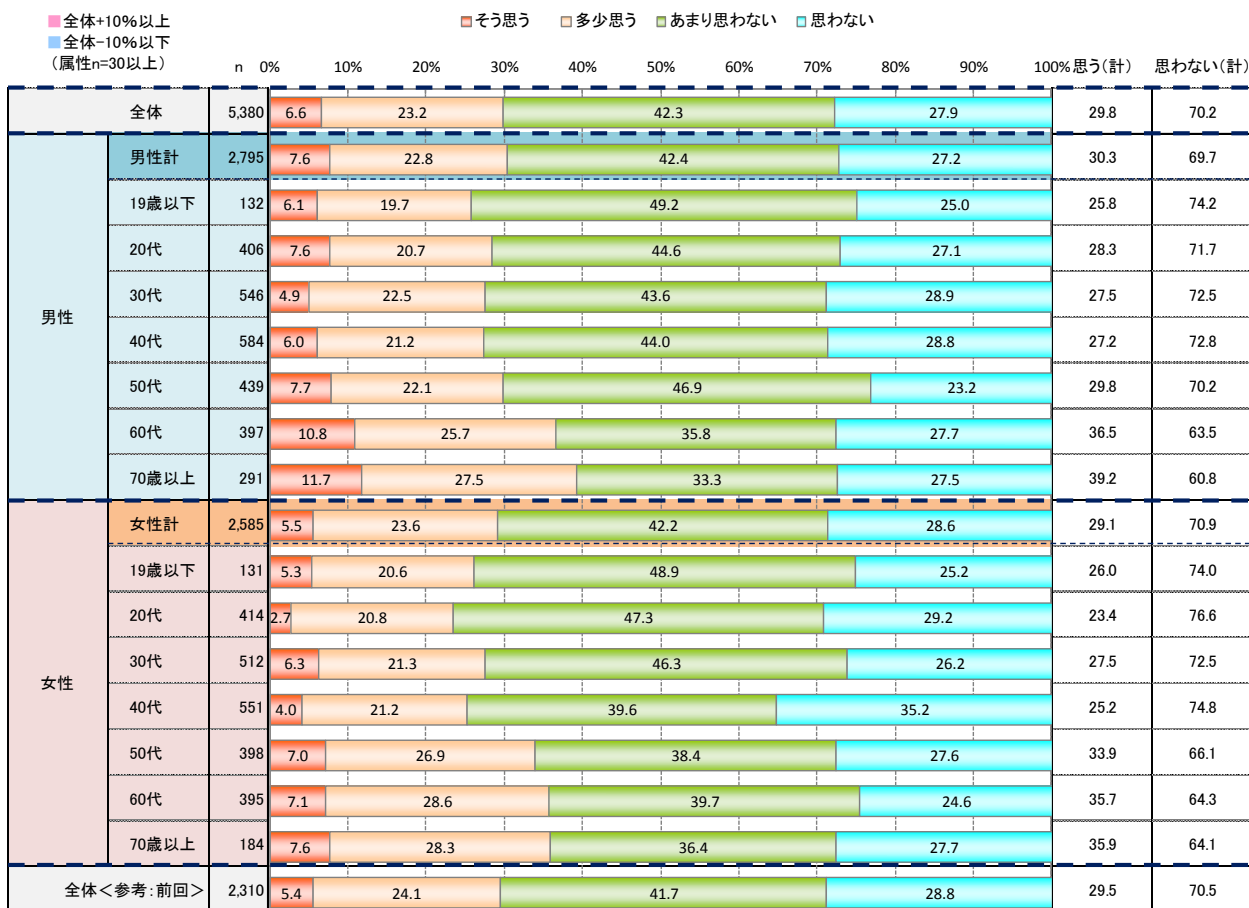
問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。
 (3) 自分は「がん」にならないと思っている

【全体】

- ・ 「そう思う」が6.6%、「多少思う」が23.2%であり、「思う（計）」が29.8%である。一方、「あまり思わない」が42.3%、「思わない」が27.9%であり、「思わない（計）」は70%を超えている。

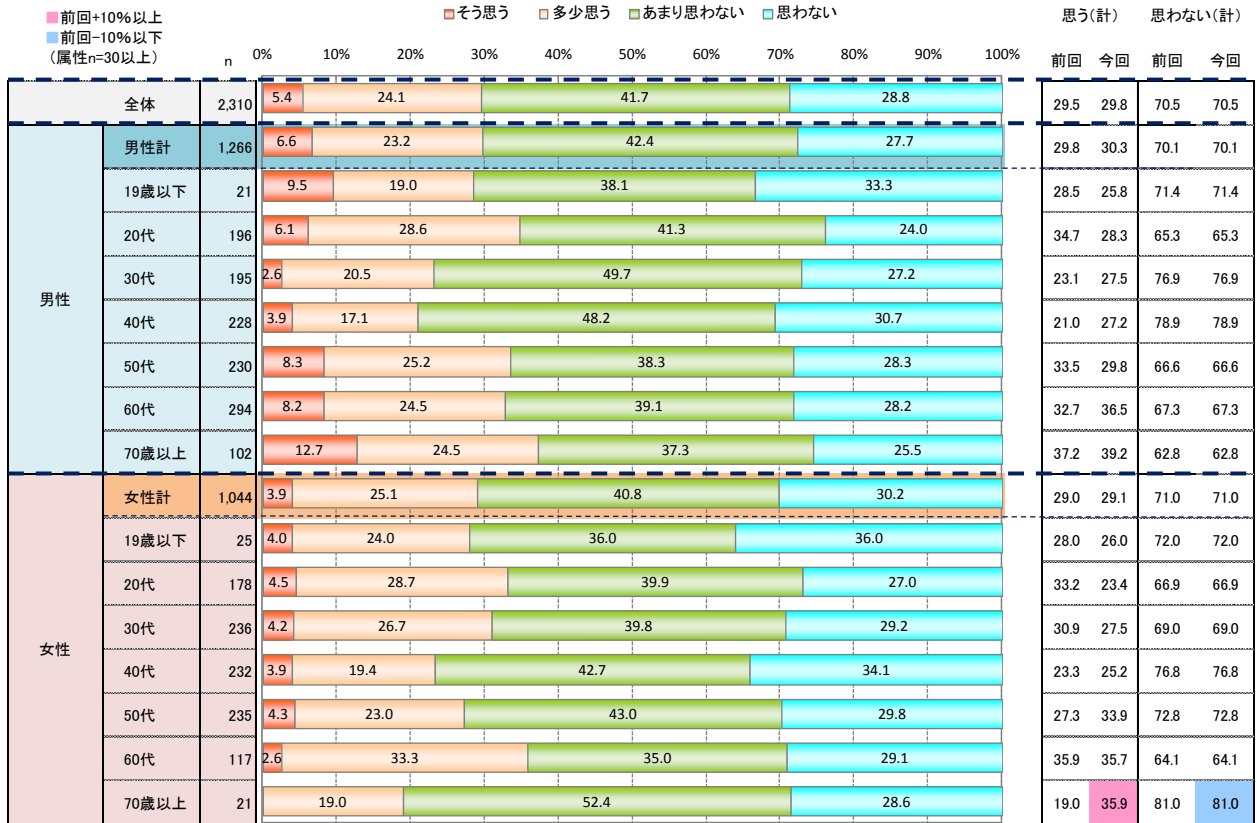
【性別×年代別】

- ・ 「思う（計）」は男女とも年代が上がるにつれて若干であるが上がる傾向にあり、男性は「60代」以上の年代で、女性は「50代」以上の年代で30%を超えている。
- ・ 「思わない（計）」は男性では「19歳以下」が74.2%で最も多いが、女性では「20代」の76.6%が最も多い。



【前回調査との比較】

- ・ 前回調査との比較では、「女性：70歳以上」の「思う（計）」が「35.9%」であり、前回の19.0%から16.9ポイント上がった。



<前回（平成23年時）調査結果>

2：「がん」についての認識

(4) 多くの「がん」は早期発見により治療が可能である

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。

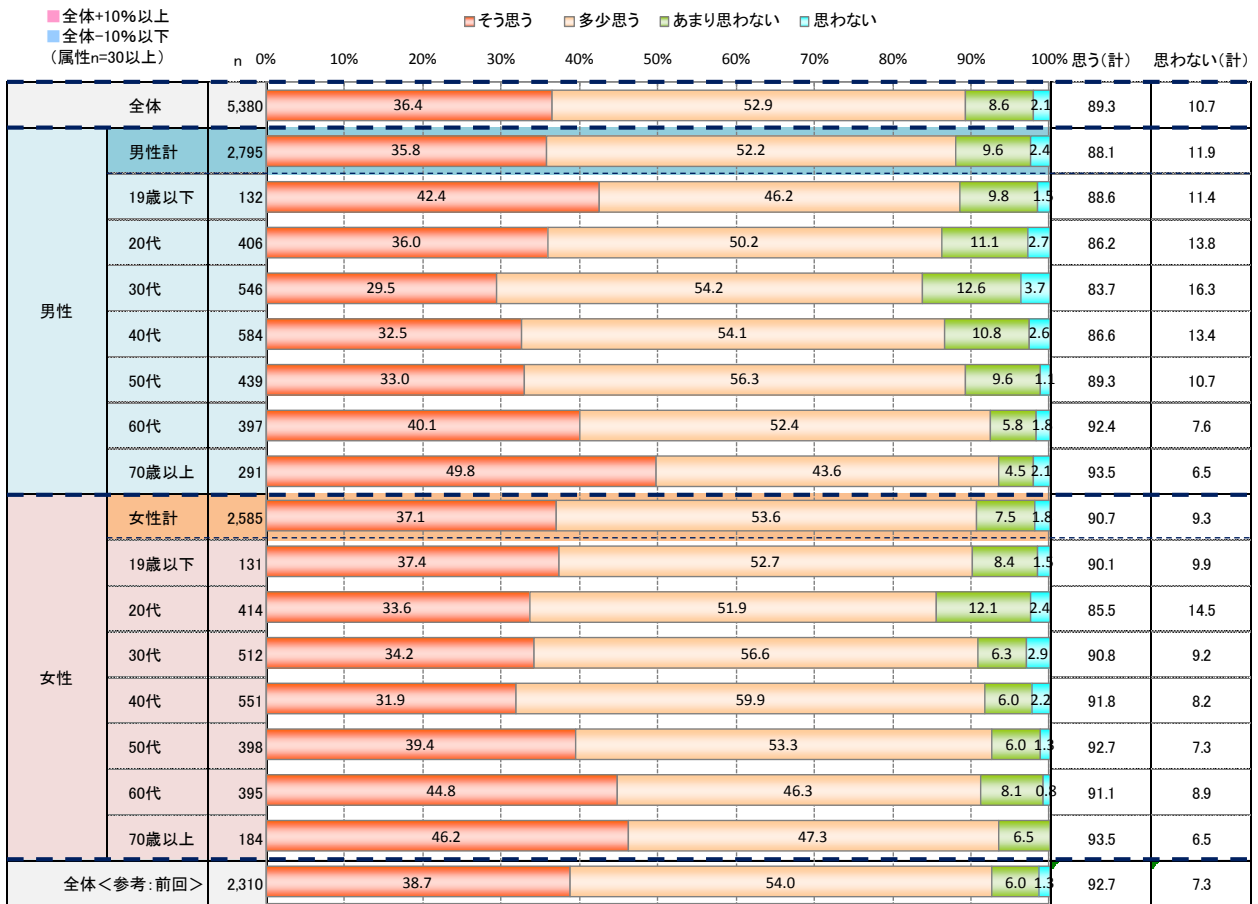
(4) 多くの「がん」は早期発見により治療が可能である

【全体】

- ・ 「そう思う」が36.4%、「多少思う」が52.9%であり、「思う（計）」が89.3%である。一方、「思わない（計）」は10.7%である。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに全年代で「思う（計）」が80%を超えている。特に女性は、「思う（計）」は全体で90.7%であり、「20代」を除く全年代で「思う（計）」が90%を超えている。



【前回調査との比較】

- ・ 前回調査との比較では、「男性：19歳以下」の「思う（計）」が88.6%であり、前回の76.2%から12.4ポイント上がった。



<前回（平成23年時）調査結果>

2：「がん」についての認識

(5) 「がん」にならないためには生活習慣の改善が重要である

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。
 (5) 「がん」にならないためには生活習慣の改善が重要である

【全体】

- 「そう思う」が 28.4%、「多少思う」が 54.3%であり、「思う（計）」が 82.7%である。一方、「思わない（計）」は 17.3%である。

【性別×年代別】

- 男女ともに全年代で「思う（計）」が 70%を超えており、男女ともに「思う（計）」が最も多いのは「70歳以上」である。
- 男性では「そう思う」は「19歳以下」の 40.2%が最も多いが、女性では「70歳以上」の 44.0%が最高である。



【前回調査との比較】

前回調査との比較では、±10ポイントを超える値の増減は見られなかった。

2：「がん」についての認識

(6) 「がん」になっても治療しながら働くことは可能である

問6. 「がん」について、あなたのお考えを聞かせてください。
 (6) 「がん」になっても治療しながら働くことは可能である

【全体】

- ・ 「そう思う」が 15.3%、「多少思う」が 51.8%であり、「思う（計）」が 67.1%である。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに年代が上がるにつれて、「思う（計）」が多くなる。「19歳以下」では男女ともに「思う（計）」は50%未満であるが、「男性：70歳以上」は84.2%、「女性：70歳以上」は84.8%である。
- ・ 同年代の男女別で比べると、「19歳以下」「20代」は男性が女性より「思う（計）」が多いが、「30代」で逆転し、それより上の年代では女性の方が男性より「思う（計）」が多い。

